（別紙4）　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	栃木県真岡市石島463		
自己評価作成日	平成24年　10月　4日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成24年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・周囲を田園風景に囲まれ静かな環境の中利用者同士助け合い、職員と一緒に穏やかに生活されている。

・一人ひとりの生活のリズムに合わせゆったりと過されている。

・併設施設との連携により行事等も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは田園に囲まれ近くをSL車が走る等、自然に恵まれた静かな環境の中に位置している。当ホームの理念を職員間で作成し掲示することにより共有実践に繋げている。また、法人の理念も掲げ毎日唱和し職員の意識の共有を計っている。特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設されており、利用者が重度化した場合の対応、研修会や地域の行事への参加等連携がなされている。毎日の生活の中から利用者の希望に添えるよう耳を傾け、畑の野菜作り、ロールピクチャー、貼り絵等を取り入れ工夫している。運営推進会議の意見等はできることはすぐに改善し、利用者へのサービス向上に役立てている。地域の幼稚園、小学校、中学校の行事に参加したり、当法人の夏祭りやクリスマス会に地域の方に参加して貰ったりと交流を深めているホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームさくら独自の理念をケア室に提示し、共有して自覚意識し実践につなげている。	当ホームの理念「心身共に健康で家族地域との連携を密にし、楽しみと希望の持てる生活が送れるようサポートします。」を職員間で作成し実践に繋げている。また、当法人の理念を毎朝唱和し、職員の意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地元の幼稚園や中学校、又文化保存会（糸取り唄・お囃子）との交流。施設での行事には地域の方々にも参加頂いてます。ボランティアを受け入れ、交流を図っています。	自治会に加入し、地元の神社の祭り等に参加している。また、当法人の運動会・納涼祭・クリスマス会には地域の方に参加頂いてる。利用者家族から野菜が届けられたりと日常的に交流している。さらに、地域の方を対象に二次予防体操教室を週1回開催し、15名程度の方に参加頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の行事に参加し、利用者の実際を説明したり、意見を聞いたり、アドバイス等をさせてもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催。利用者の状況や活動の報告をすると共に話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に、市職員・包括支援センター職員・区会長・民生委員・家族・利用者等の参加で開催している。利用者の状況や行事等を報告し、意見や要望を聞いている。また、避難訓練後当会議を開催し、消防署の職員に指導・助言して頂いている。さらに、今後駐在所の警察官に出席頂き交通指導の講演を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や出向いて現状報告し、協力関係を築けるよう努めている。	市職員には運営推進会議に出席して頂き、また電話連絡やその都度出向いたりと連携は取れている。利用者や家族等には市に直接相談や保護関係の相談に伺う方もあり、その場合も市職員と連携をとりサービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を作り、研修会を実施。ケア室に提示し、全職員が周知し、実施している。日中の開錠実施。	併設の特別養護老人ホームでの身体拘束委員会が月1回あり、参加している。そこでの話しを持ち帰り、職員全員に周知し実践している。言葉の拘束についても部署会議で話し合い、注意し実践に繋げている。なお、玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修会・部署会議においての勉強会や話し合いを実施。虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学び、関係機関と連携を取り合い、助言を頂いている。施設内にパンフレット(青年後見制度)を提示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安・疑問点を訪ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 (自立支援に関する事項・家族の協力事項)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、家族会議にて意見や要望を頂くなどしている。運営推進会議・職員会議にて報告しそれらの意見を元に行事・運営等に反映している。	家族等には意見・要望等を面会時に聞くようにしている。市や包括支援センターに直接要望等を話される方もいるが市とは十分連携を図っている。また運営推進会議にも出席して頂き、意見・要望を伺って不安等の解消に努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝・夕のミーティング時に、日常的に現場の意見を聞き、検討し、できるものより実施している。	職員会議で、管理者は職員から運営上の提案等をよく聞くようにし、食器やお盆を新しくする等の利用者の目線に立った改善を当ホームの運営に反映させている。また、朝、夕のミーティング時に利用者や家族の意見に対する回答内容を話し合い職員間で統一している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種に応じて、研修会・勉強会に積極的に参加し勉強していくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会議等に参加。意見交換や勉強会の機会があり、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。」		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なこと、要望等に耳を傾け、本人の気持ちを受け止め、不安等を汲み取るよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状況を伺い、気持ちを受け入れるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話しを良く聞き、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力・個性を認め、皆で助け合い、暮らしていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り合い、相談や不安を家族と共に協力して支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で馴染みの床屋・歯科に行ったり、併設施設の友人に会いに行ったり、馴染みの場所を家族や本人に聞いてドライブ等を実施。出かける機会を設けている。	併設のデイサービスセンターを利用している知人と週一回交流を図る方がいる。また、床屋や美容室の利用やかかりつけ歯科の受診は家族の協力により行っており、その際に家に寄ったり外泊するなどの利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事（外食・ドライブ）・レクリエーションに参加し、利用者同士の関係を深めている。良い関係が築けるようミーティング等で話し合い支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、情報提供や相談に耳を傾ける等、支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向・希望に沿った生活ができるよう、本人の表情・言葉・家族からの聞き取りから汲み取り対応している。	思いや暮らし方の要望・意向の主張ができる方が多く、花植え、畑仕事や竹箒作り等の意向の支援に努めている。また、意向や要望をあまり言わない利用者には普段の会話や仕草で把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活スタイルを面接時、面会時に聞き取り、これまでの経過の把握に努め、新たな生活に馴染めるよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話・表情・行動から心身の状態や潜在能力を見極め、日誌等に記録し全職員が共有出来るよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月１回のモニタリング、3ヶ月に1回又は必要に応じてケース会議を実施し、介護計画を作成。日常の会話や行動にも注目したり、家族にも話しを聞き反映させている。	利用者毎に担当者を決め月１回のモニタリングと3か月に1回のケース会議で話し合い、ケアマネジャーが取りまとめ介護計画を立てている。見直しの必要がある場合は、その都度話し合いを持ち検討・協議している。家族には月一回のお便りにより周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・ケース記録・介護経過記録を記入し、状況の変化に応じ話し合い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があり利用者や家族の状況・要望に応じ相談・協力を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店への買い物、図書館、公園、床屋、歯医者、眼科、地域の祭典等への外出。 訪問ボランティアの受け入れ等豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や、個々に応じた専門の医療機関と協力し、適切な医療が受けられている。	かかりつけ医があれば家族の協力により受診しておりその際、カルテ等の必要があれば病院で職員が家族と待ち合わせて対処している。協力病院の医師には、週1回往診をお願いしている。また、家族が都合悪くなった場合は、職員が薬などを貰いに行くなど対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設より看護師が毎週月曜日に巡回、相談・助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に情報提供している。家族・医療機関と連絡を取り合い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状について、常に家族に報告し、予想される状態においても理解を得られるようにしている。 職員全員で方針の検討をしている。	入所の際に終末期は病院へ入院して頂くことを説明し理解を得ている。特養の看護師により週1回（火）に訪問看護を受け、週1回（木）のDr.訪問診療に繋げており、変化があれば家族との連絡も取れるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施している。ミーティング等で十分な対応が出来るよう努めている。 緊急時の対応マニュアルが、ケア室に提示されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との協力の元、定期的に避難訓練や消防訓練を行っている。	昨年消防署と直結する通報装置とスプリンクラーを導入し、緊急時の連絡網も整備し家族へは連絡できる体制になっている。また、年2回の消防訓練の他に3か月毎に利用者と一緒に避難訓練を行い、その際、地域の方に参加して頂いている。備蓄は法人で一括して行い、当ホームでも米の備蓄をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての対応を心がけ自尊心を傷つけない介護・支援をさりげなくしている。個別対応しプライバシーを守ったり環境にも配慮している。	名前はさん付けで呼び、受け答えに顔を見て答えるようにしている。トイレはカーテンで仕切りにしているが、プライバシーを配慮して植物を置いて目隠しをしたりしている。失敗した時はさりげない対応を取り、利用者の自尊心を損ねないよう対応している。	カーテンだけでは音や動作等を防ぐのに十分でない恐れがあることからメロデーを流すなどの検討を行っているとのことであるので、引き続きプライバシーを保持できる方策を考慮することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を日常より築き気軽に思いや希望を表し、自己決定が出来るよう見守り・支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、希望に沿った支援が出来るよう検討し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みやその人らしい服装・髪型が出来るよう柔軟に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や好みの献立を利用者と職員が一緒になって作って一緒になって食べる事は楽しみにされている。テーブルセッティングや下膳は個々の力量に合わせて、積極的にされている。	食材は調理済み食品が配達され当ホームで温めて提供し、ご飯とみそ汁は作っている。利用者は、皮むきなど出来る範囲で手伝っている。職員は介助等をしながら一緒に食事をしている。また、弁当を作りピクニックに行ったり、焼き芋をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量や形態を工夫している。献立は栄養管理士（委託業者）が作成。一緒に食事をする事で水分量や身体の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアの声かけや見守り、必要に応じ介助等の支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を使用し、声かけ誘導している。パットは使用しているが自立排泄の方が多く、見守り支援が多い。夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の生活習慣の見極めや便秘の原因を探り、食事量・水分量・運動等で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせ、楽しく、安全に入浴できるよう支援している。	入浴は午後とし、希望日を決めて、週2回程度一日3～4人利用して貰っている。シャワー浴はいつでも利用できるように声かけしている。5月にショウブ湯、冬は入浴剤などを使用し、入浴を楽しんで貰っている。	週2回といわず、毎日でも入浴したい利用者がいると思えるので、声掛け等に工夫をし入浴の回数が増えるように今後検討することを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度の運動などを心がけ、生活のリズムを整えたり、室内環境にも配慮している。 生活習慣・活動状況・ストレスの状況の把握にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが、処方箋を確認し、飲み忘れや誤飲の防止に努めている。状態の変化に対しては医療機関との連携により、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活経験を活かした、家事仕事、畑仕事の他、嗜好品や楽しみ事等で気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出されたり、天気の良い日には、近所の散歩や公園、博物館、図書館等への外出。レストランでの外食も楽しみにされている。希望時、日用品など、職員と一緒に買い物に出かけている。	天気が良ければ毎日散歩している。職員の付き添いで近くの図書館まで行き、本を借りてきて読んでいる方も3～4名いる。井頭公園、上野沼（筑西市）等への外出や、回転寿司や近くのレストランで外食したり、希望があれば買い物等一緒に出かけたりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じ、個人で所持又は預かり等があります。いつでも自由に使うことが出来る		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りは自由であり、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を清潔に保ち、季節に応じた花や飾りを設置し居心地良く過せるよう工夫している。	共用の空間、玄関、ホール、台所、トイレ、浴室等の不快な臭い・音・光はなく、生活感や季節感が感じられるよう花や利用者の作品が置かれている。天井は吹き抜けで明かりを取り入れ、共用の和室ではロールピクチャーなどの作業をしたりしている。ホールのテーブルで過ごされる利用者が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルが数ヶ所に用意し、思い思いの場所にて過せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との相談で馴染みに家具や好みの物を持ち込んで頂いている。	居室は畳にベットが置いてあり、本人が好みの物や思い出の品々を持ち込んで飾ったりして、本人が居心地良く過ごせるよう工夫されている。テレビを居室に持ち込んで好きな番組を見ている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすく、大きな文字の暦や時計を目に付くところに設置。トイレ、居室もわかりやすいよう工夫している。		